



# 今宿小学校 学校だより



令和8年度 9月号 令和8年9月2日発行

校長 小野 公敬

夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿が学校にもどってきました。夏休み中、子どもたちの日常を各ご家庭、地域で見させていただきました。平日と休日とそれぞれ違うスケジュールで、なかには帰省や旅行に行き、普段の茅ヶ崎の生活と違う時間をすごされたご家庭もあったかと思います。学校生活のペースに戻していくのは、なかなか難しいものです。そして、まだまだ暑い日は続きそうです。「暑熱順化」もリセットされていると思われるため、夏休み明けは特に熱中症に注意しなければいけません。この夏の過ごし方から、水筒の水分量で足りるかどうか、こまめな水分補給など、再度確認をしていただき、また学校生活のペースをつくっていただきますようお願いいたします。

夏休みの思い出、頑張りなど、ひとまわり成長した子どもたちの話をしっかり受け止め、9月からのつながりをより深めていきたいと思っています。

## 夏休み、先生たちの研修・研究

本校職員もこの夏休み期間には様々な研修、出張に出ていました。校内の役割ごとの出張に出向いたり、教員それぞれが学びたいものにあわせていろいろなところで開催される研修会や研究発表会に行ったり、本校では児童指導研修、アレルギー研修、防犯研修、各種研修会の報告等を行っています。

そのなかで、学校教育目標の「知・徳・体の調和があり 心豊かな自律した児童の育成」を念頭に今年度は校内研究の柱として「教員一人ひとりの強みを生かした授業づくりをめざして」を掲げております。授業のなかで子どもたちが「できた」と実感できる授業づくりを目標にしております。

具体的な取り組みとして今年度も県総合教育センターより講師を2名お迎えして体育実技研修を行いました。夏の終わりに充実した研修となりました。この研修で学んだことを今後の授業に生かそうと、学年での授業計画や、11月に計画されている授業研究にむけての話し合いがスタートしています。

## 防災の意識

今年の夏は特に、酷暑に台風、豪雨や地震と災害のニュースが目立つように感じています。よく言われることですが、平時より緊急時のことをどれだけ想定していたか、対策は十分だったのか、その時の判断・行動は正しかったのかなどいのちに関わることであるがゆえに厳しい指摘がついてまわります。すべてを想定することが難しい近年の雨の降り方であったり、酷暑日という新しい呼び方ができたりする状況ですが、学校も防災計画をつくり、いのちを守る具体的な対処の仕方を防災訓練として、避難や引き取りを行い、各ご家庭にもご協力をいただいているところです。

平素からご理解とご協力をいただいておりますが、夏休み明けのこの時期に保護者の皆様にお伝えしたいのは、あらためて何か特別な準備をするというよりも、日々の生活の中で「今ここでこういう災害が起きたら・・・」と考えておくことが、いざという時に行動できるかどうかにつながるということです。家族間の連絡方法であったり、避難場所の確認であったり、また、どんな行動をとるのか、どんな危険に注意が必要なのかを、学校にいるとき、登下校のとき、家で留守番をしているとき、家族のだれかといるとき、寝ているとき・・・など、お子様と話題にいただき、いざという時のための備えを少しずつでも一つ一つ確実にしていきましょう。